



現場の反発を乗り越える！ 建設システム導入を失敗させないコツ

2024・2025年問題を追い風に、現場への定着まで実施する方法を紹介



目次

なぜ今、建設システムが必要なのか	03
現場がシステムを拒絶する3つの壁	04
「効果を実感できない」システム導入の失敗例	05
「現場ファースト」なシステムの3つの条件	06
基幹システム(ERP)と施工管理アプリの違い	07
失敗しない導入口ードマップ	08
定着率を高めるための具体的アクション	09
システム導入は「ツール」ではなく「文化」の変革	10
導入事例	11
まとめ	12
参考文献	13



なぜ今、建設システムが必要なのか

2024年問題をはじめとする法規制や、加速する人手不足。こうした逆風の中、建設業界にとって『生産性向上』は、避けては通れません。

働き方改革

2024年問題

建設業にも「時間外労働の上限規制」が罰則付きで本格適用されました。
長時間労働によるカバーは不可能です。

- ・時間外労働の上限規制（年720時間等）
- ・違反時の罰則規定の適用
- ・猶予期間の終了

人手不足・高齢化

2025年問題

団塊世代の大量引退による
ベテラン層の喪失と、若年入職者の減少が
同時進行しています。
技術継承の断絶リスクが高まっています。

- ・就業者の約37%が55歳以上
- ・29歳以下は約12%のみ
- ・労働力人口の急激な減少

業務効率化

生産性向上

「気合と根性」のアナログ管理には
限界があります。デジタルによる
「仕組み化」で、一人当たりの生産性を
最大化する必要があります。

- ・「紙、電話、移動」のムダ削減
- ・属人化からの脱却
- ・情報の見える化と共有スピードUP

しかし、多くの企業で「建設システムを導入しただけで活用されない」失敗が多発しているため、
現場に定着させるための「選び方」と「進め方」を紹介します。

現場がシステムを拒絶する3つの壁

① 操作の壁



「機能が多くて覚えられない」「画面が小さくて見にくい」といった現場環境での使いにくさがストレスになる。

② 心理の壁



「監視されている気がする」「これまでのやり方を否定されたくない」という管理強化への反発心が生まれることも。

③ 手間の壁



二重入力（紙+アプリ）になっていたり、管理側へのメリットばかりの場合、現場にとって負担増にしかなっていない状態が発生してしまう。

最大の失敗要因は、現場にとっての「メリット」が可視化されていないこと

「効果を実感できない」システム導入の失敗例

ただ単にシステムを導入してしまうと、効果を実感できないという失敗につながる可能性があります。



管理体制がないと使いこなせない場合がある

- ・ **運用方法・ゴールが決まっていない**
目的が曖昧なまま導入し現場が混乱する「見切り発車」状態。
- ・ **ベンダーやシステム担当へ「丸投げ」**
現場の業務プロセスを理解していない社員が主導し、実態と乖離してしまう。
- ・ **マニュアルを渡すだけの教育**
定着のためのフォローアップ体制がなく、現場のITリテラシー任せに。



多機能なシステムは操作が複雑になる

- ・ **機能過多で現場が入力しない**
高機能でも操作が難しければ、現場は入力を拒否しデータが集まらない状態。
- ・ **業務規模とのミスマッチ**
「少額多件数」なのに重厚なシステムを入れるなど、自社の業務に合わない導入。
- ・ **UI/操作性の確認不足**
デモやトライアルで使用感を確かめず導入し、使い勝手の悪さに直面。

まずは導入する準備（体制）を整えたうえで、自社に適したシステムを選ぶことが大切です。

「現場ファースト」なシステムの3つの条件

現場に定着するシステムを選ぶための、外せない3つの条件を紹介します。



条件 01

クラウド型であること

事務所に戻る必要をなくすことが第一歩。いつでもどこでも、リアルタイムに情報へアクセスできる環境が必須です。

- ・事務所への往復移動をゼロに
- ・最新図面や写真を即時共有
- ・サーバー保守の手間も不要



条件 02

スマホ・タブレット対応

PCを開けない足場の上や車内でも、片手で直感的に操作できるデザインであることが重要です。

- ・「スマホで見やすい」画面設計
- ・タップ操作だけで完結する入力
- ・写真や図面の拡大縮小がスムーズ



条件 03

オールインワンか特化か

ツール乱立は現場を混乱させます。オールインワンか、自社の課題に合わせて連携または統合できるものを選びましょう。

- ・写真、日報、図面を一元化
- ・バラバラなアプリの使い分けを廃止
- ・データ連携で二重入力を防止

多機能さよりも「現場での使いやすさ」を最優先すべきです。

基幹システム(ERP)と施工管理アプリの違い

■ 経営層・経理向け

■ 基幹システム(ERP)

販売・会計・在庫・工程など、企業のあらゆる業務を
1つのシステムで管理する仕組み。
部門間での情報共有がスムーズになり、業務の効率化や
ミスの削減、経営判断のスピード向上が期待できる。

■ 現場監督・職人向け

□ 施工管理アプリ

建設現場における工程管理、品質管理、安全管理などの
施工管理業務を、スマートフォンやタブレット端末を用いて
効率化するためのツール。
アプリを通じてリアルタイムに最新情報を共有できるため、
手戻りの防止や生産性の向上が期待できる。

段階的連携による「現場効率」と「経営管理」の両立

STEP 1: 現場入力
施工管理アプリで
日報・写真を簡単入力



STEP 2: データ連携
API連携でデータを
ERPへ自動転送



STEP 3: 経営反映
二重入力なしで
原価・労務費を即時把握

いきなり全てを統合しようとすると現場の負担が増すため、「データ連携でERPへ」のように段階的な構想が必要です。

失敗しない導入ロードマップ

いきなり全社導入せず、段階を踏むことが定着への近道です。

01



02



03



04



目的の明確化

- ・会社のためではなく「現場が早く帰るため」といったメッセージを発信。
- ・解決したい課題を1つに絞る。

選定・トライアル

- ・ITにアレルギーのない社員を中心に試験導入。
- ・まずは1~2現場で小さく試す。

ルール策定

- ・必須入力項目を最小限にする(最初は写真と日報だけなど)
- ・運用負荷を下げ、使い続けられるルールを作成。

説明会・教育

- ・マニュアルを渡すだけでなくハンズオンで操作説明を行う。
- ・現場からの「わからない」に即答できるサポート体制を用意。

いきなり100点を目指さず、現場のフィードバックを受けながら運用を改善していく姿勢が重要です。

定着率を高めるための具体的アクション

導入後の「使われない」を防ぐため、運用面でのサポートとルール作りを徹底しましょう。



二重管理の即時廃止

システム導入と同時に、既存の「紙の日報」や
「Excel報告」を廃止する決断をすることで
システム利用を習慣化できます。



ヘルプデスク（担当者）の設置

現場からの「使い方がわからない」という声に
即答できる担当者を置きましょう。
放置してしまうと「使えない」というレッテルを
貼られてしまう可能性があります。



成功事例の共有

「このアプリを使ったら移動時間が1日1時間減った」などの
ポジティブな成果を社内で横展開します。
メリットを実感させることで、自発的な利用を促します。

システムは「導入して終わり」ではなく、「現場になじませる」プロセスこそが重要です。

システム導入は「ツール」ではなく「文化」の変革へ

システム導入の真のゴールは、ツールを使うことではありません。
「データに基づいて改善し続ける文化」を作ることです。

意識の変革

システムの本質

システムは「魔法の杖」ではなく、
使いこなしてこそ、初めて価値が出ます。



行動の変革

改善サイクル

一度決めたルールに固執せず、
現場の声を反映して運用を
アップデートし続けることが大切です。



組織の変革

定着

成功体験を共有することで、
組織全体への定着を促しましょう。



現場の声を聞き、現場が「楽になった」と実感できる小さな成功体験を積み重ねることが重要です。

導入事例

実際の導入企業様が直面していた課題と、システム活用による解決の成果を紹介します。

屋根・リフォーム 

(有)協和リホームセンター様 従業員規模：1-6名

導入効果
情報の一元化
☑ 誰でも詳細把握が可能に

バラバラだった顧客・見積・進捗管理アプリを統合しました。案件に直接関わっていない社員でも細かい情報を把握できるようになり、属人化を解消しました。
手厚いサポート体制も高評価です。



設備リフォーム 

上島プロパン株式会社様 従業員規模：11-50名

導入効果
ブラックボックス解消
⌚ 顧客対応スピードUP

見積作成や情報管理が属人化していましたが、システム導入で誰もが情報にアクセス可能になりました。
パソコンに不慣れな社員でも使える操作性で、顧客対応のスピードが向上しました。



注文住宅・リフォーム 

Tu・Cu・Ru株式会社様 従業員規模：11-50名

導入効果
予算の見える化
↳ 交渉力・改善力UP

「売上推移表」で時系列の予算管理を実現。
社員全員が予算を意識できるようになり、業者との予算交渉が円滑化しました。追加変更の原因分析も可能になり、改善サイクルが回っています。



まとめ

建設システム導入の重要ポイント

- ①  システム導入は「現場ファースト」で
スマホ対応・クラウド型などの条件を確認しましょう。

- ②  いきなり全社導入しない
段階的な導入で成功体験を積み重ねましょう。

- ③  定着率を高めるためのアクションを実施
紙・Excelを捨てる決断などが定着への鍵になります。

機能や操作感が見られる
"体験デモ"をまずはお試しください。

貴社にピッタリの活用の仕方を
レクチャーさせていただきます。



QRでWEBページに
簡単アクセス！

参考文献

厚生労働省. "時間外労働の上限規制わかりやすい解説"[000463185.pdf](#)(参照 2025-12-18)

国土交通省. "（参考）建設業を取り巻く現状について"[1811shiryou3.pdf](#)(参照 2025-12-18)

厚生労働省. "建設業における雇用管理現状把握 実態調査報告書"[000770381.pdf](#)(参照 2025-12-18)

国土交通省. "建設業及び建設工事従事者の現状"[001180947.pdf](#)(参照 2025-12-18)